

大切な家族

奥州市立水沢中学校

二年

米沢 よねざわ

真優 まゆ

この本を手にとった時、表紙の絵が私の目に留まった。表紙にかかれているのは、カーネーション。毎年、母の日に、ありがとうございますの気持ちを含めて贈る花である。その起源を詳しく調べてみると、聖母マリアが処刑されたキリストのために流した涙から咲いたといわれる花であった。そして、その横にいる、

私と同じ年くらいの女の子の、悲しそうな表情に、私は、どうしてこの子は、こんな表情をしているのだろう。と疑問を抱いた。そこから、この本との出会いが始まっていた。表紙にいた女の子、日和。どうして、日和が、カーネーションの横で寂しそうな表情をしているのか。はじめは、そういう視点で読み進めていった。私は、父と母、私、妹、弟の五人家族だ。私は、優しい家族のみんなが大好きだ。特に、私の母は、父が単身赴任

をして、いる平日は、仕事もしながら、家の事も全部やってくれている。忙しいはずなのに、私たちのことを大切に思ってくれている。私は、もう十四歳だけれど、辛いことや悲しいことがあると、いつも母に相談する。そんな気持ちやわらいでいった時、母が私の母で良かったといつも思う。私にとってたまた人の大切な母だ。しかし、日和には私のように、母に優しくしてもらったことがない。それを知った時、私は信じることができなかつた。母や家族にたくさん愛されて育ってきた。私は、家族に愛されないということを理解できなかった。もし、私が日和だったら、死ぬほど辛いと思う。でも、日和の母も誰もが体験しないような苦しい出来事がきっかけで、日和を愛せず、苦しんでいたということも分かってきた。

母が小学三年生の時、妹が川におぼれて死んでしまった。たまた、妹だった母は私があちゃんと面倒を見ていれば死ぬことはな

か。たと、今も悔やんでいるのだという。もし、私が、日和の母だったら、自分のせいで妹が死んでしまったと、自分を責め続けると思う。私も妹がいるから、母の気持ちに寄り添えた。その妹と、日和は似ていて、日和を見るとき妹を思い出し辛くなり、日和のことを愛せないのだと、いつていた。

私は、日和と母は親子なのに、なぜ、母は、日和を愛せないのだろうと思っっていた。しかし、その背景には、母の哀しい理由があるのだと知ったとき、日和も母も、きっと苦しかったのだと思っただ。

しかし、日和は、愛されたいという望みか叶わなかったことで、母に対する気持ちや、母という存在を捨てる決断をする。しかし、それでも日和は、理由がありながらも、自分のことを愛せない母を最後まで信じ続けた。私は、愛があると思っただ。やはり、二人は親子だ。家族でも、いろいろな経験をする中で葛藤しながら生きている人たちもいる。

しかし、誰にでも愛があると信じたい。例えば、遠く離れていても、家族を大切に思う愛があれば、一緒にいることだけが家族ではないと、日和と母が私に気付かせてくれた。

私の周りには、私とは違う環境で育ってきた人たちがいる。でも、今までの私は、なぜ私とは違うのかな、と心の中でその人たちを否定していた。しかし、その違いを受け入れなければならぬと思う。もし、苦しい思いをしていたら、例えば私が、その苦しみを知ら

なくても、辛い気持ちに寄り添い、手を差し延べられる人になりたいと思う。

日和に出会い、家族とは何だろう、と考えた。一緒にいることだけではなく、互いを思う心があれば、家族なのだということを私に気付かせてくれた。私の名前は「真優」本当に優しい、という願いが込められている。だから、辛い思いをしている人に寄り添えらる人になりたい。そして、本当に優しく、私の周りの人に愛をもてる人になりたい。